

愛宕臨床栄養研究会（ACNC）第59回学術研究会

——経腸栄養管理——

日 時：平成19年3月15日 午後6時-7時30分

会 場：東京慈恵会医科大学 西新橋校 6階講堂

司 会：加藤潤一郎（東京慈恵会医科大学附属病院薬剤部）

演題1：「当院におけるNSTの活動」

東京慈恵会医科大学附属病院薬剤部

千葉 圭恵

NSTとは、各種疾患治療に応じて個々の役割を適切に栄養サポートするチームであり、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、事務員などの各専門スタッフがそれぞれの知識や技術を出し合い、最良の方法で栄養管理を支援することである。

栄養不良が長く続くことで活動力や生理機能の低下だけでなく、治癒力の低下、抵抗力の低下による合併症の増加、褥創や感染症の増加などが起こり quality of life (QOL) の低下を招く。また、栄養とはすべての疾患治療の根幹であり、集約的な管理を行い早期に適切な対策を講じることが重要である。

当院では、2005年8月よりNST準備委員会(WG)を発足させ、各種講演会への参加や勉強会を開催し、2006年10月から消化器外科、婦人科病棟を対象に活動を開始した。具体的な活動内容は、①週1回栄養に関する勉強会を開催(スタッフへの啓蒙および個々のレベルアップを図る)、②月

1回NST推進会議を開催(問題点や活動方針を話し合う)、③栄養管理計画表から栄養状態の把握および栄養不良患者の抽出(基礎代謝量の算出などにより栄養の評価を行う)、④週1回カンファレンスおよび回診の実施(栄養治療計画の助言・提案を行う)である。薬剤師の活動としては、消化器症状の副作用がある薬剤を使用している場合、経口摂取量低下の原因が薬剤性によるものなのか否かを調査し、情報を提供すること。また、経管栄養における薬剤投与時のチューブ閉塞問題への対応策の検討、感染症発生予防のための高カロリー輸液の無菌調製実施などがある。

今後も、NSTが栄養状態の評価、適切な栄養治療の提言を行い、患者さんのQOL向上へ貢献できるように各医療スタッフがさらに連携を強化して行く必要がある。

演題2：「経腸栄養管理における最近のトピックス」

東京慈恵会医科大学外科学講座

鈴木 裕